

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	社会学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生のための社会調査・研究および社会心理実験スペースを増設する	→社会調査・研究スペースの新設、社会心理実験スペースの新設	C	C			
2. すべての大人数講義に、TA・LA・SAなどの授業補助者を導入する制度を検討し、全学的に提案する	→TA・LA・SA制度の再構築に向けた提案	C	B			
3. 共同研究室内の機能を学部教育中心に再構築する	→学部学生における共同研究室内の認知および利用者数の向上	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
小項目9.0.4	(説明) 社会学部本館建替計画については、基本設計において社会調査・研究スペース(リサーチルーム)や社会心理実験スペースを確保した。また、共同研究室内の機能について再検討を行った。新・第1教授研究館の建設が開始され、2010年秋竣工した(個人研究室内の面積は現状16㎡から24㎡となった)。
☆	その他 学長府の「2010年度教育活性化資金」を活用して、社会学部授業補佐(SA:スチューデント・アシスタント)制度(社会学部開講大人数講義科目への授業補佐の配置。講義授業のライブ性・双方向性の価値を高める。)を試行した。2010年度秋学期12科目に23名のSAを配置した。

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習指導補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	21	23	19	18	18	他に、社会福祉実習助手4 (2005、2006、2007年度) COE研究補佐3 (2005、2006年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	13.4	12.6	13.1	12.4	13.8	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	13.5	15.1	11.5	11.5	13.6	
		講師	時間	13.8	-	8.0	-	-	
		助教	時間	-	-	8.8	8.6	11.4	

(その他の指標データ)

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	
★ その他	<p>多人数授業への授業補佐配置により、「学部教育の質の向上」の取り組みの核となる教室内での授業のそのライブ性・双方向性の価値を高めることは困難な課題であったが、ある教員とSAにおいてチャレンジングに試みがなされ「授業補佐という第3の立場の者が授業に参加することで、授業に動きと広がりが出てくる」との可能性を得ることができた。また、授業補佐となる学部生にとって、授業運営に参加し、履修学生を監督する役割を担うことで、人格的成長が促された。この制度の企画・実施・評価・展望の議論を通じて、社会学部教職員の「学部教育の質の向上」への取り組みに大きく寄与した。</p>

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	
★ その他	<p>学長府に全学的・恒常的の制度へ継承されることを提案する。</p>

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目9.0.4	
★ その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目9.0.4	
★ その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○教育の質の向上に向けて積極的な取組みが行われていることは高く評価されます。予算上の制約等もあるでしょうが、その他の事柄についても、更なる努力が望まれます。

【学内委員】

○授業補佐の試行的な実施に効果があったようで、積極的な取組みが評価できます。
○教育研究等を支援する環境の整備に関しては、社会学部本館建て替え計画により対応済みと考えられます。計画通りに実施されることを期待します。SA制度に関しては、恒常的な資金によるものではないにしても、具体的な配置が行われ、学部教育の質の向上が達成されたものと思われまます。試行的な試みではありますが、大いに評価できます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし